

建設副産物ならびに循環資源の有効利活用

＜再生利用時における品質管理の在り方＞

- 【日 時】 2018年10月31日(水) 13:00～17:00
- 【会 場】 エル・パーク仙台 セミナーホール
※受講料無料(定員180名/事前申し込み)
定員になり次第締め切らせていただきます
- 【共 催】 資源循環コンソーシアム(代表:宮城大学 教授 北辻政文)
宮城県建設発生土リサイクル協同組合(理事長:赤坂泰子)
一般社団法人泥土リサイクル協会(理事長:木村 孟)
(H29～30年 環境研究総合推進費(課題番号:3-1702))

国土交通省の平成24年度、「建設副産物実態調査」によれば、建設汚泥の工事間利用は1%であり、平成17年度の4%から大きく減少しているとともに、泥土リサイクル協会が平成29年度に実施した、「建設汚泥ならびに廃石膏ボードのリサイクル実態に関する自治体へのアンケート調査」においても自ら利用や個別指定等による工事内ならびに工事間利用が減少していることが報告されました。こうした中、同協会では、建設汚泥が産業廃棄物であることに鑑み、不適正な処理は生活環境の保全および公衆衛生の向上に支障をきたす恐れがあることから、健全で適正かつ有効な処理を行うべく、排出事業者自らが利用する場合の留意点を取りまとめ、勉強会や講演を通じて啓発活動を実施するなど建設汚泥のリサイクルを促進しています。

一方、建設発生土においても全国的に余剰状態にあることが報告されており、この現状に鑑み資源循環コンソーシアムにおいては、建設発生土を改良するための技術を整理したり、宮城県建設発生土リサイクル協同組合においては、優良事例の紹介として現場見学会や再生利用のための勉強会を実施しています。

また、建設副産物である廃石膏ボードにおいても、環境安全性を踏まえたりサイクルに向けてガイドラインの策定に取り組んでおり、この度、「再生石膏粉の有効利用ガイドライン(試行版)」が完成し、ブラッシュアップに向けて啓発活動を実施しているところであります。

そこで、東北地区における発注機関ならびに現場技術者、中間処理業者に向けて、建設副産物および循環資源の有効利活用に関する公開講座を開催いたしますので、業務ご多忙の中大変恐縮でございますが、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

●プログラム●

- 13:00 開会
- 13:05 建設汚泥再生品を建設工事で利活用するために(発注機関ならびに中間処理業者に向けて)
泥土リサイクル協会 事務局長 野口真一
- 13:50 建設汚泥を処理したものを自ら利用するために(発注機関ならびに排出事業者に向けて)
泥土リサイクル協会 グループ統括 鴫田 稔
- 14:50 休憩
- 15:00 建設発生土改良技術ならびに東北地区における建設発生土リサイクルの現状
東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授 飛田善雄
- 16:00 廃石膏ボードリサイクルの品質管理の在り方と社会実装
「再生石膏粉の有効利用ガイドライン(試行版)」の解説
独立行政法人 国立環境研究所 福島支部 室長 遠藤和人
- 17:00 閉会